

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立東山東小学校
校長氏名	青 木 茂 生
作成日	平成27年2月28日

1 教育目標

生きる力をはぐくみ、心身ともに健やかで、明日の社会を築く豊かな創造性と実践力を持つ子どもの育成

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	出会い・ふれあいから学ぶ ○多くの人との出会いを通して学ぶ機会をより多く設け、小規模校で過ごす子どもたちが広い視野を持ってものごとを考えられるようにする。	やさしい心・たくましい心や体 ○教科・道徳・体験活動等あらゆる教育活動の場で豊かな心や考え方を育てるとともに、心身のたくましさや粘り強さを身につけさせる。	考える子ども ○読み・書き・計算等の基礎的・基本的な学力をつけさせるとともに、自ら学び自ら考え主体的に判断し問題解決をしていく力を育てる。

取組の状況【D】	・4年生は、中華人民共和国出身の苑蓉（エンヨウ）さん、1～3年生では、パナマ共和国出身のハヤセル、カステージョさん、全学年がアメリカ出身のALTの先生と交流を持つことができた。また、3年生は竹の里園の皆さんと、音楽で交流した。 ・6年生が四季の郷・ネイチャーセンターに東山東地区を紹介するガイドブックを設置した。 ・5年生は、東山東幼稚園の園児さんとの交流や放送体験教室で、足守神社、ミカン作りにつきて取材、発表した。その他、学校だより、校内掲示板等での学校の様子を紹介した。	・縦割りグループを活用し、春・秋の遠足（ウオークラリー、大阪市立科学館）色別対抗リレー（運動会）を実施した。 ・仲間作りを重視し、学年遊びや異学年遊びを行った。（大休、昼休） ・放課後、始業前のミニバスケットボール練習で若い教員2名が指導を実施した。 ・図書室を活用し、道徳や生活習慣の指導に役立つ図書の充実に努めた。 ・青少年赤十字の精神にのっとり、ブルタブ集めをおこなって、車いす購入の資金集めを行った。	・学力学習状況調査の結果を受けて、「たけのこタイム」、フォローアップの時間を設け、学力向上に努めた。 ・「うちどく」に取り組み、家庭を含めた読書活動に力を入れた。休憩時間の図書室開放もおこなった。100ブック達成でなれる「こども司書」を取り入れて、意識の高揚につとめた。
取組の成果と課題【C】	・外国の方や地域の方々とふれあうことにより、違った言葉や生活習慣ふれて、外国や地域等に興味を持つとともに、人との会話を苦手としない子供が増えている。 ・色々な手段で情報発信したことにより、開かれた学校に近づくことができたと思う。さらに、このような取り組みを進めていきたい。 - 保護者アンケートは96.9%の回収率で、ほとんどの項目で、90%以上の方の評価を得ることができた。	・全国体力・運動能力調査（5年生）でほとんどの項目で全国平均並の結果を得た。シャトルランなど一部の種目では取り組みが必要である。持久力に課題がある ・ブルタブ集めでは、目標金額に近づきつつある。どんな所へ貢献できるか、考える機会である。 ・家庭教育や学校の取組の成果が現れ、校外活動など、外部の方との関わりの中で高評価を得ることができた。	・全国学力・学習状況調査（6年）では国A以外は国の平均を上回るだけであった。「漢字や慣用句」などの習熟と「聞く」ことに課題がみられた。 ・和歌山県学力到達度調査では、ほとんどの学年で県平均を上回る結果を得た。一部、算数で計算力などに課題があることがわかった。 ・問題に意欲的に取り組む児童が多かった。
改善方法【A】	・地域に根ざした学習を積極的に進め、より多くのひとと交流し経験を積むことで、コミュニケーションの力をつけたいと思う。 ・外国語活動を積極的に取り入れ、子どもたちの学習意欲を喚起させる取組を進めていきたい。 ・学校HPの有効活用をはかる。	・縦割り活動の機会を増やして、思いやる心を育てる取組を進めたい。 ・体力調査では、今年も持久力に課題が見られるため、日々の活動の中で、解決策を探っていききたい。 ・限られた予算であり、次年度も引き続き図書の充実に努めたい。また、家庭への図書の提供なども呼びかけたい。 ・う歯治療率の向上を働きかける。	・「たけのこタイム」やフォローアップの時間を有効活用して、基礎基本の定着をはかる。 ・学習指導を充実し、学習意欲を高めるとともに、表現力の育成をはかる。 ・「うちどく」の取組を継続、発展させる。また、児童の読書の実態を分析しニーズに合った図書を充実させたい。 ・家庭学習では保護者の協力を得られるよう働きかける。

3 その他の課題

・本校は、家庭や地域の教育力に恵まれ、子どもたちはのびのびと活動できています。しかし、交通量が増加し、通学なども必ずしも安全とはいえなくなっている現状もうまれています。

そんな中で、連合自治会長様はじめ地域の皆様のご協力で信号設置も現実のものとなりました。交通指導員様や民生委員児童委員連絡協議会様の登校指導等で、安全面もカバーしていただいています。

そんな中で、紀の川市の事件が起こり、さらに効果のある対応を実施しなければならないと考えます。学校でも、育友会と連携し、引き続き、安全な登下校について取り組んでいきたいと思ひます。